

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

グローバルな課題の解決に挑む力、持続可能な社会づくりに貢献できる力を育む学校

各学校で定める目標と育成する資質・能力

種々の体験等とおして、自己を社会によりよく生かせるように、自他の生命を尊重し、他人を思いやる心を育て、豊かな人間性を培うとともに自己の可能性を拓き、さらに自己の生活と生き方を考えることができるようにする。

- (1) 他者の話を聞き、多様な考えを知ることで、生徒が他者を理解することができるようにする。
- (2) 自らの在り方生き方を振り返り、体験発表や文集においてそれを表現することで、自分の思いや考えを他者に伝えることができるようにする。
- (3) さまざまな体験を通じて、他者と協働して活動することができるようにする。

総合的な探究の時間の学習評価

- 生徒が他人の気持ちになって考え行動することができたか。
- 生徒が自分の思いや考えを説明することができたか。
- 生徒が自分の役割を理解し果たすことができたか。

生徒の実態

- ・純朴で素直な気質をもち温和である。
- ・自己理解・他者理解が十分深まっていない生徒が多い。
- ・自己肯定感が低く、自分の考えを表現することに消極的な生徒が多い。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

- ・生徒の成長を信じ、見守る姿勢で支援する。
- ・生徒との心のふれあいを大切にす。
- ・体験を通して、生徒の学習(活動)への意欲喚起を心がける。

目指す生徒の姿

- ・自他を尊重する心と、より良く生きるための自己指導能力を持つことができる。
- ・社会の一員として、誠実で主体的、協働的に行動することができる。

各学校が定める内容(目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力)

社会性を身に付ける 自分自身を見つめなおす

1 学年

- (1) 「道徳」、各種講習会・体験的な学習において知識を得るとともに社会との関わりを学ぶ。
- (2) 自分の思いを文章に起こすことを学ぶ。
- (3) 自分自身を表現できるようにする。

2 学年

- (1) 各種講習会・体験的な学習において社会の中での自分自身の存在について学ぶ。
- (2) 体験したことを自分の現在の在り方として文章に起こすことを学ぶ。
- (3) 自分自身と他者との関わりについての内容を表現できるようにする。

3 学年

- (1) 各種講習会・体験的な学習において自律について学ぶ。
- (2) 自分自身の課題を整理し解決への道すじを立てることを学ぶ。
- (3) 今までの経験を活かし他者を導けるようにする。

4 学年

- (1) 各種講習会・体験的な学習において自分の将来像を思い描く。
- (2) 自分自身のこれからの姿を整理しまとめることを学ぶ。
- (3) 今までの経験を生かし卒業後の自分の姿をイメージできるようにする。

学習活動、指導方法等

各種行事の後にワークシートを書く事により、自分の行動並びに他人とのコミュニケーションの取り方等を振り返ることにより自分自身を見つめ直す。

校外学習：○事前学習での説明を聞き、疑問点をまとめ、質問する。レポート作成による振り返りを行う。

- 地歴・公民の授業等でしおりを用いて事前指導を行う。取り組みの様子を観察し必要な助言を行い、レポートを含めた評価を実施する。

校内生活体験発表：○原稿作成を通じて自らの体験を振り返り、文章として表現する。全体の前で発表し、他者の発表を聞くことで体験を共有する。

- 国語の授業等で原稿作成の助言・指導を行う。また、表現の内容や意欲・態度を評価する。

各種講話等：○HR・保健体育の授業等での講話の内容を体験・学習する。

- 他人の話が聞けているか、自分自身の生活を見直すきっかけとなっているか、またレポートを作成することにより事後学習を行い、取り組みの様子や、レポートで評価する。

各種体験学習：○各種体験をすることにより、コミュニケーションの必要性や楽しさを学ぶ。

- 活動の様子を観て助言・指導・評価を行う。

文集作成：○一年間の活動を振り返り下書き、清書さらにコンピュータへの入力を行う。

- 自分の成長の過程、内面の見つめ直しができているか、国語、道徳、情報の授業で学習したことが活かされているかを見て評価する。

指導体制(環境整備、家庭・地域との連携)

- ・職員・保護者が情報を共有し生徒の活動を支援する。
- ・職員・保護者が目標と活動の関連を意識して生徒の活動を支援する。
- ・職員が研修を通して、活動実施に必要な知識・技能を身に付ける